

# 10月10日は目の愛護デー

眼の病気や感染症は、物を見る時の様子や充血・目ヤニなどでわかることがあります。いつもより、子どもの眼をよく観察するようにしてみませんか？



## 目ヤニや充血、涙目はカゼや感染症のサイン

子どもは涙が眼から鼻に流れる鼻涙管が狭いため、頻回に目ヤニが出ますが急に目ヤニが増えた、眼がいつもよりウルウルしている、寝起きに眼が開かない、眼を痒がる等、いつもと違う時は早めに受診しましょう。眼の病気は細菌やウイルスによる感染症の場合と、視力など眼自体の機能的な病気の場合があります。どちらも軽いうちに見つけて治療することが大切です。

目ヤニや涙目がみられる病気の代表的なものを紹介します。

### 《結膜炎》

ウイルス性結膜炎は風邪に伴うものや、ウイルスが原因の感染症からくるものなどがあります。どちらの場合も受診し人にうつらないかどうかを確認して下さい。特に流行性角結膜炎（はやりめ）は感染力が強いので、目ヤニが出ている間は登園出来ません。また、アレルギー性結膜炎は痒みを伴うのが特徴です。原因物質（ダニやハウスダスト）を避ける事は難しいので、症状を緩和する薬を処方してもらいましょう。

### 《鼻涙管閉塞症》

新生児の6～20%にみられ、乳児の目のうるうる・目ヤニの原因になっています。鼻と眼は鼻涙管という管でつながっていますが、ここが生まれつき塞がっていたり、狭くなっていて涙がきちんと流れない疾患です。うるうるした状態が続くと視力に影響する恐れがあります。

### 《逆さまつ毛》

まつ毛が内側に向かって眼球に接触している状態。眼球の表面に小さな傷が出来易く、充血・目ヤニ・涙が多いのが特徴です。成長に伴って自然に治ることがありますが、眼科を定期的を受診して眼球に傷が無いかをみてもらうと良いでしょう。



子どもの目は毎日発達していて、両目の視力機能は6歳頃にほぼ完成すると言われています。その後視力が低下するのは、幼いころの姿勢や身体の動かし方が関係しているそうです。

下記のようなものを見方をしていたら危険信号です。（斜視や弱視の可能性がかんがえられます）

- テレビや絵本に近付いて見ている
- 明るい戸外で眩しがる
- 目を細めて見る
- 上目遣いに物を見る
- 目つきが悪い（睨むように見る）、目が寄っている
- 物を見る時や話を聞いている時、頭を傾ける

子どもは視力が悪い（見えにくい）ことを自覚できないため、上記のような症状がないか気に掛けてみて下さい。症状が見られた場合、すぐに眼科を受診しましょう。

